

平成 28 年度

ルナ・ホール事業関連新聞記事

事業名 国際フォーラム

音楽とトークで描く芦屋の未来

開催日 平成28年5月14日(土)

平成28年4月17日(日曜日)

信濃

信濃

信濃

信濃

音楽とトークで
文化共生を考える
芦屋で来月14日
外国人にも住みやまい都

市づくりだつて、話し合おう
フォーラム「音楽とトーク
で描く芦屋の未来」が5月
14日、芦屋市立平町のルナ
・ホールで開かれる。「国
際文化共生都市」を掲げ、
外国人も多い同市で、文
化共生のあり方を考えよう
と市などが企画した。
第一部では、米大リー

ンゼン、ヤエのサルビツ
シユ有殺手の父でイラン生
まれのフアルサさんや、孫
文記念館(神戸市)館長の
愛新嘉堡さんらが「阪神間に
おける多文化共生」をテー
マに討論。外国人が住みや
すい社会にするための課題
などを話し合った。
第一部では、イランの民
族楽器サントウルと中
国の二胡の演奏や、子供た
ちによる世界の歌の披露が
ある。入場料は無料。
午後2時開演。チケット
は1000円で、芦屋市民
センターや同市役所などで
販売している。問い合わせ
は同センター(0797・
35・0700)へ。

多文化共生考える

在日外国人の視点から、多文化共生社会について考える国際フォーラム「音楽とトクで描く芦屋の未来」が14日、芦屋市業平町のルナ・ホールで開かれた。米大リーグのダルビッシュ有投手の父ダルビッシュユセファット・ファルサさん(55)らが相互理解の重要性を訴えた。

(前川茂之)

「芦屋で国際フォーラム」在日外国人ら語る

「差別は情報不足から」

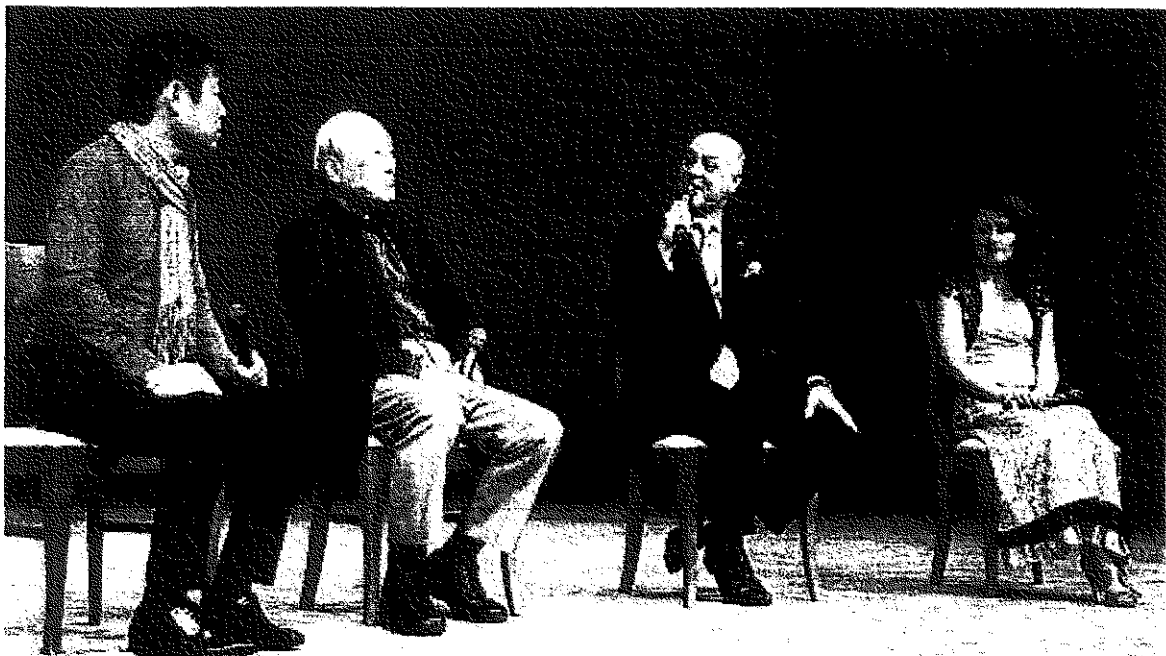
芦屋市などの主催で、ることなどを座談会形式
来日40年以上という在日で話し合った。疑問が生じた時こそ、「コミ

外国人3人が日ごろ感じ 差別は情報不足から来る。疑問が生じた時こそ、「コミ

ユニケーションを取るチャンスになるはず」と強調。イラン出身のベルシヤ料理研究家ダリア・アナビアンさんも「関西は外国人からの人気が高い。人が親切で、しぐさも派手だから意味が伝わりやすい。積極的に話しかけてほしい」と続いた。

孫文記念館(神戸市垂水区)館長の愛新翼さんは、言葉の重要性を指摘。「別の国の言葉を覚えることで視野が広がる」と語った。

会場では、イランの民族楽器「サントウル」や中国の民族楽器「胡」の演奏もあり、約150人の観客はうっとり異国の音楽に酔いしれた。



多文化共生について語るダルビッシュユセファット・ファルサさん(左から3人目)ら=芦屋市業平町

事業名 コンサート

松永貴志 JAZZ LIVE 2016

開催日 平成 28 年 7 月 31 日 (日)

神戸新聞 2016年07月03日 日曜日 面名 阪神 1 4 25ページ

松永貴志さん
2カ所で公演

31日、芦屋

芦屋出身のピアニス

ト、松永貴志さん(30)

のライブ「松永貴志 J

AZZ LIVE 20

16と老人ホームでの

ミニコンサート」が31

日、「芦屋市民センタ

ー ルナ・ホール(業

平町)と「あしや喜

楽苑(潮見町)」でそ

れぞれ開かれる。

松永さんは8歳のと

き、芦屋市内の自宅で

阪神・淡路大震災を体

験。13歳で米国の巨匠

ハンク・ジョーンズ氏

から絶賛され、17歳の

とき初のアルバム「T

AKASHI」でメジ

ャーデビューした。

「あしや喜楽苑」で

のライブは午前10時半

開演。無料。4日から

受け付け開始。先着50

人。あしや喜楽苑 ☎0

797・34・928

7

「芦屋市民センター

ルナ・ホール」は午

後3時開演。前売り3

千円、当日3500円。

市役所売店やローソン

チケットで販売中。芦

屋市民センター ☎07

97・35・0700

ピアニスト松永貴志さん

地元で華麗な演奏

芦屋

芦屋市出身のジャズ 齢者総合福祉施設「あ
ピアニスト松永貴志さ しや喜楽苑」で開かれ
ん(30)のコンサートが た。同施設では、入居者
31日、同市業平町の市 や市民ら約60人が華麗
民センター「ルナ・ホー な演奏に聞き入った。
ル」と同市潮見町の高 松永さんは同市内で



阪神・淡路大震災を「戸」など、オリジナル
経験。自宅が半壊す 曲を中心に計6曲を披
るなどの被害を受け 露した写真。

た。17歳でメジャー 観客は演奏に引き込
デビューし、演奏活動 まれ、アップテンポな
に加え、報道番組や 曲では自然と体でリ
CMのテーマ曲制作な ズムを取る姿も。同施
ど、幅広く活躍してい 設の入居者で、自身も
る。 ピアニストの横井和子

あしや喜楽苑では、 さん(96)は「観客に呼
実家近くの宮川をイメ び掛けるような親しみ
ージして作曲した「ナ 深さを感じた」と話し
イト・リヴァー」や、 た。

夜景を題材にした「神 (太中麻美)

ジャズピアノの
松永さん古里公演

芦屋で31日

活動的な演奏で世界的に
活躍する芦屋市出身のジャ
ズピアニスト・松永貴志
さんのライブが、31日午
前10時から、同市業平町の
ルナ・ホールで開かれる。

松永さんは17歳でデビ
ューし、ピアニストのハイビ
ー・ハンコックさんとの共
演などで注目を集めた。米
国の名門ブルーノートレ

2016/7/31(日) 20時

ーベルからアルバムをリリ
ース。日本では、報道番組
のテーマ曲を作曲するなど
幅広く活躍している。

当日はトランペット、ベ
ース、ドラムスとのカルテ
ットで演奏。スタンダード
曲や、阪神大震災の被災経
験から復興した神戸の街
をイメージして作曲した
「神戸」などを披露する予
定。入場料3,000円(当日
3,500円)で、同市役所や
市民センターなどで販売。

兵庫

神戸支局 神戸市中央区栄町通4の3の5
〒650-0023 電話078(371)3221
FAX078(371)7615
kobe@mainichi.co.jp

阪神支局 尼崎市東難波町5の16の29
〒660-0892 電話06(6482)1221
FAX06(6482)5456
hanshin@mainichi.co.jp

【主な通信部】丹波通信部 079(552)0388
【購読問い合わせ】 0120-468012

姫路支局 姫路市三左衛門堀東の町102
〒670-0949 電話079(282)1221
FAX079(288)2330
himeji@mainichi.co.jp

豊岡支局 豊岡市元町10の6
〒668-0026 電話0796(22)6331
FAX0796(23)5188
toyooka@mainichi.co.jp

淡路支局 洲本市本町3の1の40 電話0799(22)1360
FAX0799(24)1360

星の占い 4日

★牡羊座(3・21~4・19) 防衛本能が働くとき。筋違いの親切は断った方が無難。
★牡牛座(4・20~5・20) 人に振り回される。子供とのレジャーで気疲れ多し。
★双子座(5・21~6・21) 年上に可愛がられそう。素直さが好意をもたれるとき。
★蟹座(6・22~7・22) 外国人と縁あり。習慣や言葉の違いを乗り越えて幸運。

松永さんがプロのミュージシャンになった時、レフトアロンの壁に書き込んだサイン

河内 厚郎の 文化回廊

31日、芦屋で松永さん里帰り公演

ASHIでメジャーデビューをはたし、ベストセラーとなった。米ブルノー・トリーベル史上、最年少リターナ録音記録を樹立するという快挙であった。18歳で作曲・演奏したテレビ朝日系「報道ステーション」のテーマ曲でも注目を浴び、その後も報道番組の作曲・演奏を数多く手がけてきた。8歳のとき芦屋の自宅で阪神・淡路大震災を経験した松永さんは、東日本大震災チャリティコンサートで芦屋から被災地へ一を自ら企画、公演の収益全額を寄付している。

私が行くライヴハウスは、日本旅館の建物を再生させた神戸北野坂の「ソネ」、各門ナイツクラブの伝統を引き継ぐ阪急武庫之荘の「ライヴスポット」アロ、そして、歌舞伎俳優や映画監督の常連もいる芦屋の「レフトアロン」となる。小学生の頃、レフトアロンの柱にプロのジャズピアノリストになる決意を書こうとした松永貴志さん(30)は、13歳で巨匠ハンク・ジョーンズに絶賛され、17歳のときにアルバム「TAK席」。

797・35・070
Q、午後3時開演、前売3000円・当日5000円(全席指定席)。

事業名 口演と落語とトーク
 木津川計のラストステージ「ルナ」
 開催日 平成28年9月23日(金)

毎 日 新 聞 2016年(平成28年)10月8日(土) 阪神 尼崎

ラストステージに感無量



舞台演劇や映画を題材にした「一人語り劇場」を主宰する木津川計さん(80)＝大阪市＝の「ラストステージ「ルナ」」が先月、芦屋市業平町のルナ・ホールで開かれた。木津川さんはこれまで11作を発表し、初演は全てルナ・ホールで行ってきたが、大ホールが来年1月から改修されることになり、今後は初演の舞台を風月堂ホール(神戸市中央区)に移す。

木津川計さん「一人語り」

木津川さんは、関西の芸能や文化を幅広く紹介してきた雑誌「上方芸能」の創刊から携わり、今年5月に200号で廃刊するまでの48年間、発行人を務めた。人間国宝の落語家、故桂米朝さんと親交があり、ラストステージには、ファン約300人が詰めかけた。

ルナ・ホールに300人 次作から神戸で初演

木津川さんが「一人語り劇場」を始めたのは、パントマイム芸人、劇作家として知られるマルセ太郎の死(2001年)がきっかけだった。「敬愛する」マルセのような演技、登場人物の心の分析はできないが、作品の解釈、時代を語ることはできると思ったと振り返り、2007年、1作目「晩の母」を芦屋公民館の講座で発表した。2作目以降も、初演は必ずルナ・ホールで披露した。13作目「勸進帳と封引切」は11月27日、風月堂ホールで発表される。

ラストステージでは、これまでの作品紹介を行ったあと、米朝さんの長男、桂米団治さんとトークショー。木津川さんは「『洛陽の紙価を高める』という言葉がありますが、米朝師匠に原稿を書いていただいたことで、上方芸能の価値が高まった。米朝師匠の原稿料はただ。もし支払っていたら上方芸能はつぶれていました」と話し、米団治さんが「あとで本になって、それでもうけていたみたいですよ」と切り返すと、会場から笑いと拍手が起った。【元田慎】

ファンから花束を受け取り、感無量の表情を見せる木津川計さん(右は落語家の桂米団治さん)＝芦屋市のルナ・ホールで

